

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2020年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株
工期	令和3年5月10日 ~ 令和4年3月31日		作成者	鈴木 悠平
作業名称	排水管補修工	作業手順書	作成年月日	令和3年5月7日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	連絡車		改正年月日	
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	レンチ、スパナ、インパクトドライバー、ロープ、チェーンソー、ノコギリ、鉋、鎌		現場責任者	
	カッターナイフ、ウエス、養生テープ		協力会社	会社名 -
保護具	ヘルメット、手袋(刃物作業時は耐切削用)、保護メガネ、チャップス、安全帯、親綱		協力会社責任者	企業サイン -
	自動車運転免許証 振動工具		作業順序	
免許資格等 (免)(技)(特)(準 特)の区別を記す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 1人		1	現地確認
	合計 4名		2	準備作業
			3	材料、道具運搬
			4	親綱設置
			5	周辺採探
			6	排水管補修(準備工) A、B
			7	運搬
			8	片付け
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日	令和3年5月7日

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○△、△○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○×、△△、×△	2:かなり小さい	関係者に対する指示
性	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	△×、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	実施すべき事項の特定
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)					(防止対策)
現地確認(全員)								
	作業箇所確認	危険ポイントの確認						
	周辺安全確認	構造物の確認						
準備作業(全員)								
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認						
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認						
材料、道具の運搬 (責任者、作業員、保安員)	車両を安全な位置に停車する。	輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキ。	車両停車後、車両が通行車線に飛び出て、一般車両と接触する。	△	×	△	4	輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキを確実に行う。
	材料、道具等にロープを取り、橋梁からのり面まで降ろす。	手元注意	荷物を持ち昇降階段を下りる際、荷物が落下する。	×	△	×	3	材料、道具等にロープを取付ゆっくりと降ろす。
	手元注意	手元注意	荷物を持ち昇降階段を下りる際、手を滑らせ落下する。	△	×	△	4	材料、道具等にロープを取付ゆっくりと降ろす。
親綱の設置 (責任者、作業員)	急斜面で作業するため、親綱を設置、安全帯を装着する。	足元注意	作業する際足元が滑り、転落する。	△	△	△	3	親綱を設置し、安全帯装着し作業する。
周辺採探 (責任者、作業員)	チェーンソー、鉋、鎌を使用し、排水管周辺の木、草等を伐採し、作業場所を確保する。	飛散注意	切断時破片が目に入る。	×	△	△	4	保護メガネを着用し作業する。
	手元注意	手元注意	チェーンソー、鎌、鉋等で手や足を損傷する。	△	×	△	4	機械、道具等の使用する際は保護具を着用し、周辺に人がいないことを確認し作業する。
排水管補修準備工 (必要があれば) (責任者、作業員)	パイプ補修箇所の寸法を確認し、カッター等を使用し、寸法分だけ新規パイプをカットする。	手元注意	カッター等で手を損傷する。	△	△	△	3	耐切削手袋を着用し、作業する。
	パイプ補修箇所、下部が滑り落ちないよう、ロープ等で固定する。	手元注意	補修箇所パイプ撤去時にパイプがのり面を転がる。	△	○	△	2	ロープでしっかりと固定する。
	パイプ補修箇所をカッター等で撤去する。	手元注意	カッター等で手を損傷する。	△	△	△	3	手袋を着用し、作業する。
排水管補修 A半割型ソケット (責任者、作業員)	半割型ソケットの上にシーリング材を中央部の溝に合わせて設置する。	シーリング材が中央部の溝に合わせ設置する。	パイプの端がソケット中心よりずれ水が漏れる	△	○	△	2	寸法を測りパイプにマーキングを行う
	接続するパイプの両端が半割ソケットの中心になるようパイプを設置する。	無孔管用ソケットのストッパーがパイプの谷部に入っていることを確認する。	接続部が水に濡れ落下する。	△	○	△	2	作業スペースを確保し、安定した位置で作業する。
	接続部の片側にシーリング材を重ね合わせ、ラップしたところを仮止めする。	パイプ接続部注意	接続部が水に濡れ落下する。	△	○	△	2	作業スペースを確保し、安定した位置で作業する。
	半割型ソケットをボルト固定する。	ソケットのツバが内側になるようにし、隙間がないようにしている。	ソケット固定時に指を挟む。	△	○	△	2	耐切削手袋を着用し、作業する。
排水管補修 Bストロングソケット (責任者、作業員)	パイプ裏面のホコリ、砂等をウエスなどでふき取り、ストロングソケットの上にシーリング材を設置する。	シーリング材が中央部の溝に合わせ設置する。	パイプの端がソケット中心よりずれ水が漏れる	△	○	△	2	寸法を測りパイプにマーキングを行う
	接続するパイプの両端が半割ソケットの中心になるようパイプを設置する。	無孔管用ソケットのストッパーがパイプの谷部に入っていることを確認する。	接続部が水に濡れ落下する。	△	○	△	2	作業スペースを確保し、安定した位置で作業する。
	シーリング材をパイプの外周に巻き付け、両端を重ね合わせ、重ねたところをテープ等で固定する。	パイプ接続部注意	接続部が水に濡れ落下する。	△	○	△	2	作業スペースを確保し、安定した位置で作業する。
	ソケットをボルト固定する。	ソケットのツバが内側になるようにし、隙間がないようにしている。	ソケット固定時に指を挟む。	△	○	△	2	手袋を着用し、作業する。
材料の運搬 (責任者、作業員、保安員)	材料、道具等にロープを取り、橋梁からのり面まで降ろす。	手元注意	荷物を持ち昇降階段を下りる際、荷物が落下する。	×	△	×	3	材料、道具等にロープを取付ゆっくりと降ろす。
	手元注意	手元注意	荷物を持ち昇降階段を下りる際、手を滑らせ落下する。	△	×	△	4	材料、道具等にロープを取付ゆっくりと降ろす。
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている						